

名古屋市【ロボカップ2017名古屋世界大会】

ロボカップ の概要

ロボット工学と人工知能の融合、発展のために日本の研究者らによって提唱された国際的な**自律移動ロボット**の競技大会

ロボカップ の目標

2050年までに、人型ロボットでサッカーのワールドカップ・チャンピオンに勝つ



回	年	開催地			
			11	2007	アメリカ・アトランタ
1	1997	日本・名古屋	12	2008	中国・蘇州
2	1998	フランス・パリ	13	2009	オーストリア・グラーツ
3	1999	スウェーデン・ストックホルム	14	2010	シンガポール
4	2000	オーストラリア・メルボルン	15	2011	トルコ・イスタンブール
5	2001	アメリカ・シアトル	16	2012	メキシコ・メキシコシティ
6	2002	日本・福岡、韓国・釜山	17	2013	オランダ・アイントホーフェン
7	2003	イタリア・パドヴァ	18	2014	ブラジル・ジョアンペソア
8	2004	ポルトガル・リスボン	19	2015	中国・合肥
9	2005	日本・大阪	20	2016	ドイツ・ライプチヒ
10	2006	ドイツ・ブレーメン	21	2017	日本・名古屋

第1回大会以来、20年ぶりの名古屋開催！！

ロボカップの主な競技

Soccer

標準プラットフォーム



ヒューマノイド



中型ロボット

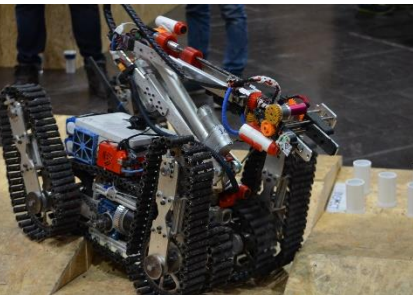
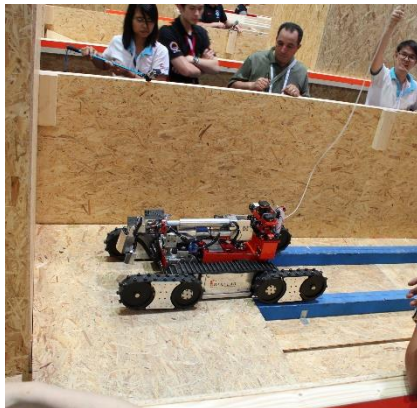


小型ロボット



人間のサッカーの試合と同じく、自分で考えて動く自律移動ロボットを使った競技

Rescue



被災現場をイメージしたフィールドでの競技

@Home ジュニア除く



日常生活での利用を想定し、いかに人間と共に作業を遂行できるかを競う競技

OnStage ジュニアのみ

ロボットと参加者がダンスや演技を披露

名古屋市 【ロボカップ2017名古屋世界大会】

大会期間

平成29年7月25日(火)～31日(月)
セットアップ 25日(火)～26日(水)
競技期間(一般公開) 27日(木)～30日(日)
シンポジウム 31日(月)

想定参加者数等

参加者：約3,000人(約40か国)
来場者：100,000人以上

会場

名古屋市国際展示場



テバオーシャンアリーナ



大会開催の意義

新たな 技術革新

世界各地から人工知能やロボット工学に関する最先端の研究者が集結します。技術者との交流により、新たな技術革新の可能性が広がります。



社会的課題 への対応

レスキューや@Homeなどの競技を通し、自然災害や少子高齢社会など近い将来直面する社会的課題に対し、新たな解決策を提示します。

*福島原発では、ロボカップの技術を応用したロボットが投入されています。



未来への 貢献

ジュニアリーグや併催事業には、ものづくりに取り組む多くの子ども達が参加します。競技や子ども達の交流を通し、未来のものづくり人材の育成に貢献します。

